

Hamamas



May / 2010

Now mi stap long Kokopo. Long Kokopo,
I gat planti nature na gutpela si na
naispela kalsa. Olsem na mi laikim tokim
yupela long Papua New Guinea. Olsem na mi
mekim sampela toksave long Hamamas. Sapos
yupela i gat laik long Papua New Guinea, bai
mi Hamamas. Tenkyu tru.

こんにちは。私がパプアニューギニアに来てもうすぐ一年半になります。活動もあと半年近くです。最近は何かが経つのが早く感じます。今回は私がパプアニューギニアの生活の中で見てきたものについてお伝えしたいと思います。

<楽器について>

これはベンブーベンという楽器です。材料は竹を使っています。竹を組み合わせて、竹の穴の部分をサンダルを使って叩いて使用する楽器です。この楽器は伝統的なドラムだと思えます。この楽器はもともとブカという所で始まったものらしいです。そして私の任地のトーライ族がこの楽器の使い方を習い、今はトーライ族もこの楽器を使用して演奏しています。サンダルを使用して演奏する事に驚きました。



ベンブーベン



スリッパを使って演奏している所



これはクンドゥーという楽器です。木の棒で叩くものと手で叩くものがあります。お祭りの時やセレモニーがあるときに使用されます。ちなみにこれは葬式の写真です。この地方の葬式は家族やワントクが多く集まり行われています。

ちなみにこのクンドゥーを使っているおじいさんは以前、日本のテレビに出たおじいちゃんです。昔、日本軍と一緒に生活していたそうです。ココポ周辺の年配の方は日本語を知っている人が多いです。「こんにちは」「ありがとう」などの簡単な日本語もしゃべることができます。中には「もしもしかめよ」などの日本の歌も知っている方もおり、歌ってくれます。



クンドゥーを使ってセレモニーをしている所

<バックについて>

(ビルム)

ビルムとはパプアニューギニアで使われているかばんの事です。手編みで作られているため、とてもしっかりしています。また以下の写真のように、様々な種類のビルムがあります。ビルムの持ち方として、女性は頭に吊るして持っている方が多いです。とても重たいものを持っている時は、前かがみになりながら歩いている女性もいます。肩にかけて方が楽ではないのかなと感じてしまう時もあります。また男性は肩にかけて持っており、このような持ち方をしません。



マーケットで売っているビルム



ビルムの持ち方 (女性)



(トーライバスケット)

トーライ族が持っているバスケットです。トーライ族の人達はこのバスケットを使っています。形により男性、女性用のバスケットがあり、三角形の形をしているものは男性用、長方形の形をしているものは女性用です。材料はココナッツの葉です。ココナッツの木の先端にある新しい葉を切り取り、火で軽くあぶってからバスケットを作っています。あぶることで葉が柔らかくなり、バスケットが作りやすいからです。一つのバスケットを作るのに早い人は10分程度で作れてしまうそうです。バスケットの中にビードルナッツと呼ばれる嗜好品を持っているのが、トーライ族の男性の習慣です。

またバスケットは部族によって作りや形が様々です。その人が持っているバスケットを見るとこの部族かが分かります。



マーケットで売っているトーライバスケット



バスケットを作っている人達

<生活用品について>

(ほうき)

これはピジン語で brum とされるほうきです。材料はココナツの葉です。詳しくはココナツの葉の中心にある太い線維の所を使っています。その部分は硬くしっかりしているために、ほうきとして使用できます。ココナツの葉の中心部分をナイフで切り、ナイフでほうきの先端部分を鋭くしています。それをたくさん合わせてひとつにまとめてほうきを作っています。どの家庭も必ず持っており、これを使って掃除をしています。僕の家にもあり、掃き掃除に使っています。葉に弾力があるために少しの力で掃除ができます。



ナイフで葉を切り、ほうきを作っている所



ほうき



ほうきで掃除をしている所

(うちわ)

これはココナツの葉で作られたうちわです。病院には扇風機があまりないため、患者さんはうちわを使っています。ココナツの葉をしっかり編んで作っているため、結構しっかりしたうちわです。僕も家で停電が起きた時にこのうちわを使って暑さと戦っています。



ココナツの葉で作られたうちわ



うちわを使っている患者さん

(おわりに)

今回は身近にあるものについて書かせてもらいました。パプアニューギニアの生活を通し感じる事は、限りある資源の中で生活に必要なものをうまく作っているなと思いました。またその技術をも多くの人が知っており、パプアニューギニアで生きていくための術なのだということを感じました。

(26/May/2010)

St.Mary's Hospital Vunapope Physiotherapist HIROTAKA YAMAMOTO JICA VOLUNTEER